第 283 回 都市懇サロン レポート	「生業・生活再建によるポスト近代復興の実現 ～ 日常のまちの課題解決も含めた創造的復興の推進 ～」		
講師	愛知工業大学工学部建築学科 准教授 益尾　孝祐 先生	開催日	令和 6 年 9 月 10 日(火) 18：00～20：00
講師 プロフィール	1976 年大阪府生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒業。同大学院修了。 2002 年より(株)アルセッド建築研究所に入所。中越地震や東日本大震災など、様々な被災地の復興支援や全国各地の景観まちづくりや歴史的建造物の再生、地域再生に携わり、研究的実践のもと実践的研究を推進。 現在、愛知工業大学工学部建築学科准教授。博士（工学）。一級建築士。主な受賞に、土木学会デザイン賞最優秀賞、都市住宅学会業績賞、住総研博士論文賞など。	 愛知工業大学工学部建築学科 准教授　益尾孝祐先生	
お話の概要	●震災により失われる集落等の歴史的風致を生業・生活とあわせて復興する手法等を紹介 〇新築建物（地域型住宅）による再生する方法（山古志、十津川、能登の復興） ・地域型住宅による自立再建住宅支援 ・自立再建住宅支援と公営住宅制度の連携 ・2007 年の能登半島地震の取組（能登ふるさと住宅、自己所有地型災害公営） 〇歴史的建造物を修理・改修し再建する方法（気仙沼市内湾地区） ・建築基準法等の法的規制を適用除外していくための取組みが必要 ・復興基金での登録文化財支援、生業補助金の活用による歴史的建造物支援 〇まちづくり市民事業による市街地復興（えんま通り商店街、気仙沼内湾地区） ・共同建替え事業等による連鎖的なまちづくり市民事業による市街地の再建 ・買取災害公営住宅と共同建替、防潮堤一体建築、文化財の連鎖的再建 〇部分改善型事前復興まちづくり（尾鷲市） ●上記に加え多様なエリアリノベーションの取組みを追加で紹介		
意見交換の概要	●高齢化・空家化が大きな課題である中で、集落へ差し込み型の災害公営を中心に供給した場合、将来的な空家化に伴い、行政が不良な公共施設を抱えるリスクもあるが、その対策等はあるか。 ⇒十津川では災害公営の供給する集落を絞りながら、福祉拠点として整備することで、移転を促進しながら、集落景観に調和した災害公営を供給した。移住施策との連携も図ることで、高齢化や空家化への対応を図っていくことも考えられる。 ●エリアリノベーションは、商店街や観光地等では有効な手法であるが、純戸建住宅地のような場所での活用は考えられるか。 ⇒空家等が顕在化している住宅地では、住民の問題意識が高いので、リノベーションにより既存流通にのせることや、地区計画等を策定している良質な住宅地等で行政と連携しモデルをつくることで、横展開させていくこと等は考えられる。		
記録者のひとこと	既往の復興の取組事例等を通し、能登のように美しい市街地景観・集落景観を保全しながら災害復興を推進する手法を多数ご紹介いただき、大変参考になった。私も都市計画コンサルタントとして、過去の震災復興に係る教訓を踏まえながら、復興支援を関わっていければと思う。 ≪都市懇サロン運営部会　委員　森川　禎二郎≫		